



昭和20年頃の地形図

### 3 計画の目標

## 計画の目標

河川整備の最終目標

目標流量  $4,690\text{m}^3/\text{s}$

策定済

武庫川水系  
河川整備**基本方針**

平成21年3月  
兵庫県

基本方針の目標達成に向けて  
概ね20~30年間で実施する  
河川整備の内容

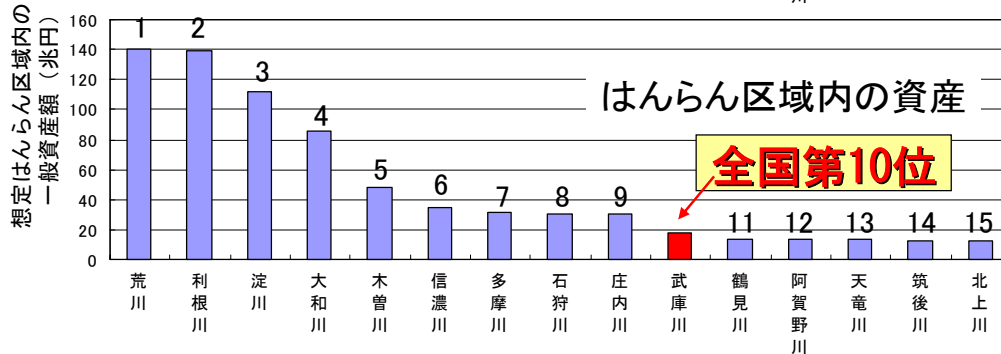
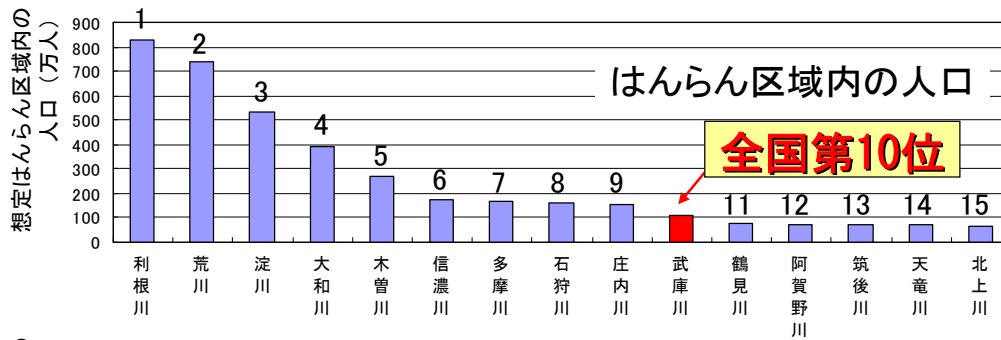
目標流量 ?  $\text{m}^3/\text{s}$

今回

武庫川水系  
河川整備**計画**  
(原案)

平成22年1月  
兵庫県

# 国管理河川と肩を並べる 武庫川の想定はんらん区域内の人口・資産

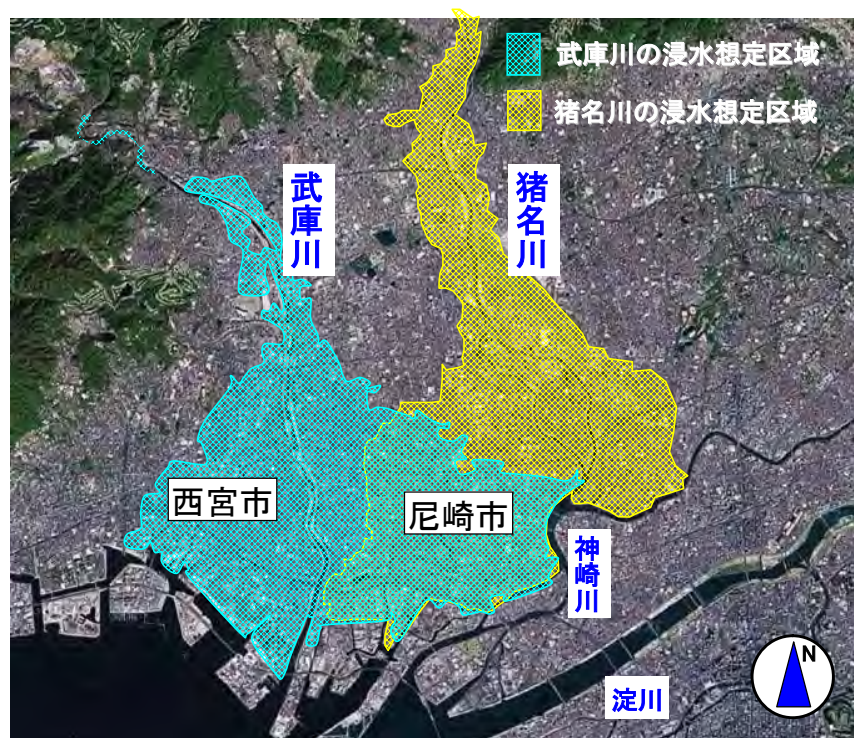


平成20年度 第8回河川現況調査より

全ての一級水系(109水系)及び主要な二級水系(100水系)を対象とした調査。

想定氾濫区域内人口・資産の上位15水系のうち、二級水系は武庫川のみ。

# 武庫川とはんらん区域を共有する猪名川





### 3 計画の目標

## 上位クラスの 国管理河川等の 目標水準

- ① 上位クラスの  
国管理河川
- ② 武庫川と氾濫  
区域を共有する  
猪名川

の目標水準

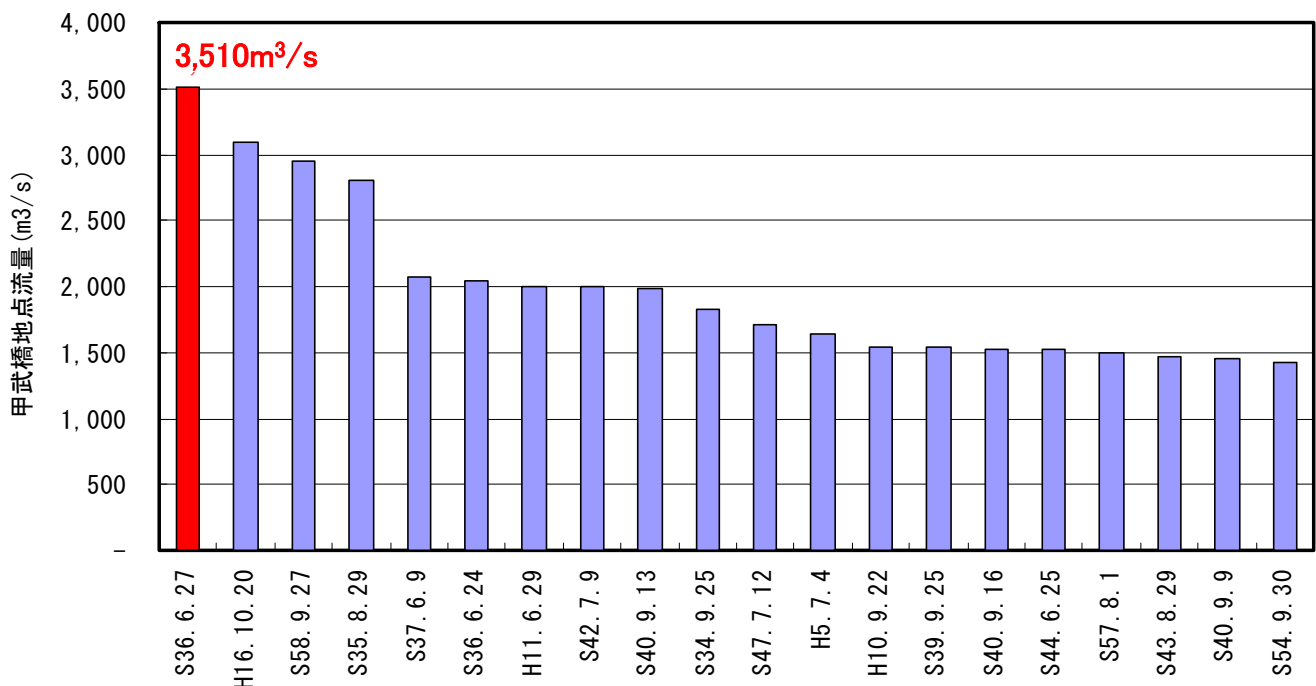


ともに  
戦後最大洪水

水系名	河川整備計画の 目標水準 (平成21年8月時点)	想定氾濫区域内	
		人口順位	一般資産 額順位
荒川	(未策定)	2	1
利根川	(未策定)	1	2
淀川(猪名川含む)	戦後最大洪水	3	3
大和川	(未策定)	4	4
木曾川	戦後最大洪水	5	5
信濃川	(未策定)	6	6
多摩川	戦後最大洪水	7	7
石狩川	戦後最大洪水	8	8
庄内川	戦後最大洪水	9	9
<b>武庫川</b>	<b>戦後最大洪水</b>	<b>10</b>	<b>10</b>
鶴見川	戦後最大洪水	11	11
阿賀野川	(未策定)	12	12
天竜川	戦後最大洪水	14	13
筑後川	戦後最大洪水	13	14
北上川	(未策定)	15	15

### 3 計画の目標

## 武庫川の洪水流量上位20



# 計画の目標

河川整備の最終目標

目標流量4,690m<sup>3</sup>/s

策定済

武庫川水系  
河川整備**基本方針**

平成21年3月  
兵庫県

基本方針の目標達成に向けて  
概ね20~30年間で実施する  
河川整備の内容

目標流量3,510m<sup>3</sup>/s

今回

武庫川水系  
河川**整備計画**

戦後最大の洪水である  
昭和36年6月27日洪水と同規模  
の洪水から沿川住民の生命や  
財産を守ることとし、  
目標の流量を3,510m<sup>3</sup>/sとする。

(説明用補足資料)資料5-3



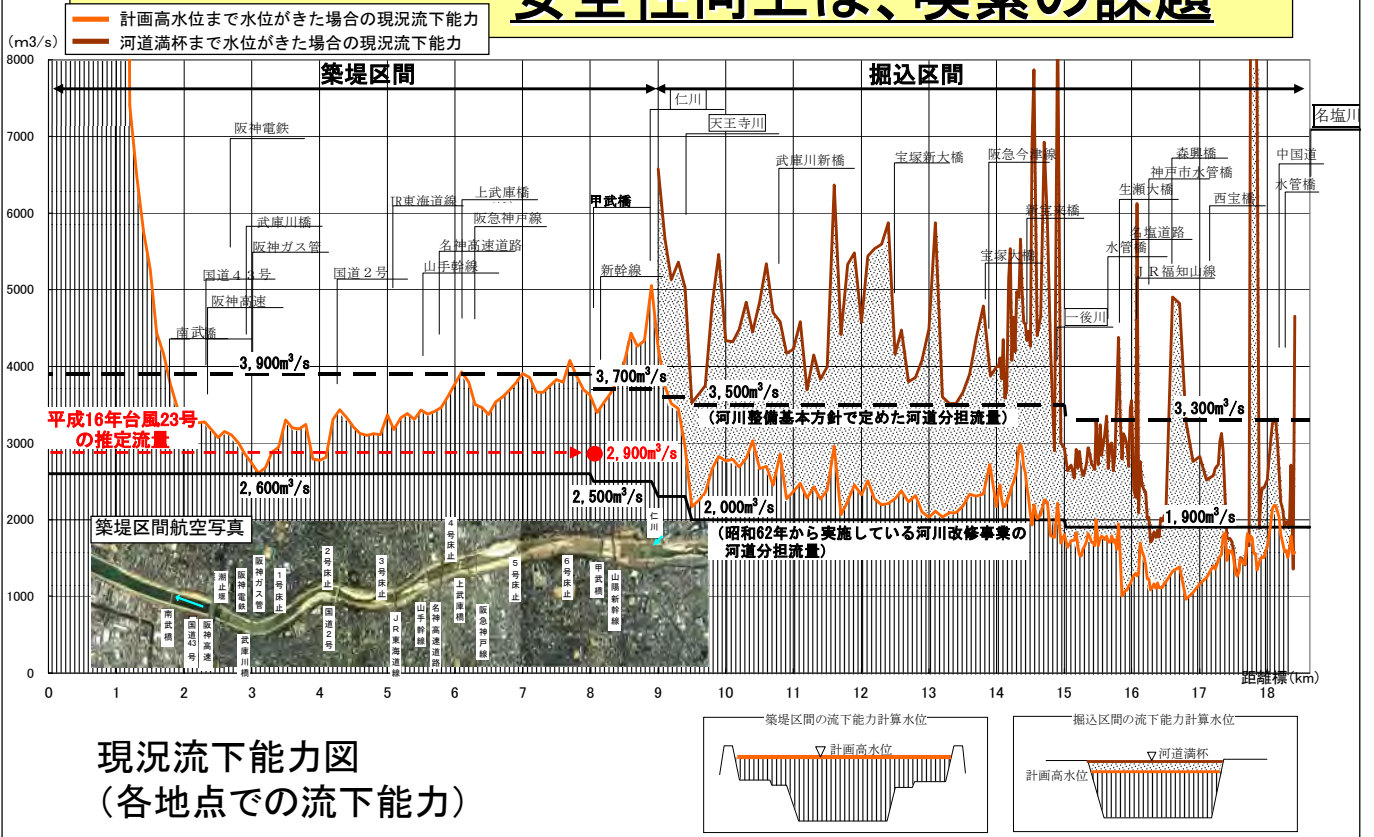
## 4 武庫川の課題を踏まえた 治水対策の選定

現在の地形図





# ① 築堤区間における流下能力の低い区間の安全性向上は、喫緊の課題



## 治水対策選定の考え方

どのような治水対策を組み合わせれば、基本方針の整備目標である4,690m³/sに向けて、  
② 早期に安全性を向上できるのかについて検討

治水対策の選択肢

河川対策

✓川底の掘り下げ等



✓堤防強化



✓遊水地の整備



✓既存水道ダムの治水活用



✓新規ダムの建設



流域対策

✓学校等での雨水貯留





# 千叅ダムの治水活用 や 新規ダム建設 の課題

## (1) 合意形成に多大な時間を要する

✓千叅ダムの治水活用



神戸市民の水道用水を貯めるためのダム



最近の少雨化傾向を踏まえ、渇水リスクへの対応を不安視する水道事業者との合意形成

✓新規ダムの建設



環境保全に配慮したとしてもなお、ダム選択への社会的な合意形成

(2) 完成するまでに十数年と時間を要し  
その間は整備効果を発揮できない



## ① 下流部築堤区間の喫緊の課題に対応でき ② 早期に整備効果が発揮できる対策の選定

河川  
対策

川底の掘り下げ等

(河口～JR東海道線下流等)



(説明用補足資料)資料5-4

堤防強化

(南武橋～仁川合流点)



(説明用補足資料)資料5-5

新規遊水地の整備

(武庫川上流浄化センター内用地)



青野ダムの活用

(予備放流による容量拡大)



流域  
対策

学校等での雨水貯留



- ・学校
- ・公園
- ・ため池

(説明用補足資料)資料5-6

下流部築堤区間において、戦後最大洪水の洪水である  
昭和36年6月27日洪水の流量を安全に流下させることができる。

(参考)河川対策・流域対策の概算事業費※

川底の掘り下げ等・堤防強化＝約250億円、新規遊水地の整備・青野ダムの活用＝約30億円

学校等への雨水貯留＝約70億円、中上流や支川での改修＝約70億円

※事業規模をわかりやすく示すため、概ねの事業費を参考に記載した。実施時には現地状況を踏まえて詳細に検討し、工法等を決定するため、記載の事業費が変更になることがある。

さらに →

## 減災対策の実施

本計画の整備目標は、河川整備基本方針の目標達成に向けたあくまで途中段階の目標である。また、近年の気候変動等に起因する集中豪雨も多発傾向にある。



整備目標を上回る洪水や整備途上段階で河川の流下能力を超える洪水の発生に備え、

河川対策

流域対策

減災対策

を加えて実施し、洪水被害の軽減を図る

## 総合的な治水対策

